

佛母寺だより 第11号

発行・佛母寺 〒299-1601 富津市田倉942-13

住職・松原覚樹

Tel:0439-37-2336 Fax:0439-37-2378

上記につながらない時は Tel:03-3451-1853; Fax:03-3451-6094

Website:www.butsumoji.com

檀信徒の皆様には於かれましては如何お過ごしでしょうか。

今年の鹿野山の春は、佛母寺参道の桜と塔所の桃花が同時に咲きました。とてもきれいな光景でした。これからは寺花である紫陽花の季節になります。たのしみが続きます。

これから迎える梅雨の季節も、佛母寺は紫陽花でにぎやかになります。露と雨で湿ったコケもまた鮮やかな緑で皆様を迎えてくれます。

7月には妙峰殿施餓鬼会、そして8月には大施餓鬼会とお盆行事が続きます。参拝の皆様がみなさん坐っていただけるように法要椅子も整いました。皆様にお会いできますのを楽しみにしております。

佛母寺「子供たちシリーズ」の第一章、「スポ禅」（スポーツと禅）も毎回20人ほどの親子さんたちで人気です。サッカーと禅のコラボレーションで子供たちの心とからだの育成プログラムです。どうぞご参加ください。

平成24年 5月26日 佛母寺にて

妙峰殿施餓鬼会のご案内

以下の通り、妙峰殿永代供養塔大施餓鬼会を厳修致します。ご参拝下さいますよう、謹んでご案内申し上げます。去年より塔婆立ても建立いたしました。お塔婆もお申込みください。

- * 7月8日（日曜日）午前11時30分より お盆・施餓鬼会法要了 法話並びに昼食
- * 供養料：4,000円（法話・昼食代：参加希望者のみ）
- * 塔婆代：3,000円（一本：連名は二名まで）

お塔婆のお申込みは法要当日まで受け付けております。同封の返信はがき、または電話やFAX・メールなどで、お申込み下さいますようお願い致します。

注意：妙峰殿檀信徒の方々も8月4日佛母寺大施餓鬼（以下説明）に参加していただくことはもちろん可能です。ただし、ご参加の場合は以下のとおりの法要供養料をお願い致します。

佛母寺大施餓鬼会のご案内

以下の通り、佛母寺大施餓鬼会を厳修致します。ご参拝下さいますよう、謹んでご案内申し上げます。佛母寺閑栖安井玉峰さんも法要にご出頭されます。佛母寺開山山田無文老大師のゆかりの寺、京都・霊雲院（大本山妙心寺塔頭）の現住職であります則武秀南老大師もご出頭予定であります。

- * 8月4日（土曜日）午前11時より お盆・施餓鬼会法要了 法話
- * 一般檀信徒供養料：6,000円

- *新盆壇徒供養料：10,000円（法要回向にて戒名の読み込み・最前列列席）。
- 新盆壇信徒参加者は、お席の確保の関係上、必ず事前に人数をお伝えください。
- *塔婆代：3,000円（一本：連名は二名まで）

塔婆のお申込みは法要当日まで受け付けております。同封の返信はがき、または電話やFAX・メールなどで、お申込み下さいますようお願い致します。

また、当日のお盆・大施餓鬼会には出席されないけれども、お塔婆をご希望される方は、お墓参りされる時までにご利用致しますので、お早めにお申し込み下さいますようお願い致します。その際、参拝日の予定もお書き添え下さると幸甚です。

お盆・大施餓鬼会のお塔婆は8月15日まで残しています。法要に欠席された方も墓参りに来山の折、各自でおたて下さい。

「Butsumoji・子どもたちのスポ禅」開催！

“ハーモニー、心とからだをつなぐスポ禅”

スポーツと禅。この「動」と「静」のハーモニーは「目標達成」に役立つのです。佛母寺でMasaki 和尚から禅を学び、精神力、集中力、無心を習得する。Otty こと、清野乙彦先生からは大自然の天然芝グラウンドでのアートフットボールトレーニング(トータルフィットネス・スポーツ)を通じてサッカーの楽しみ方を伝授してもらおう。メンタルとフィジカルの強さをサッカーと坐禅で鍛え磨きます。

期日：2012年 7月7日(土) 第3回スポ禅
8月5・6日(日・月) 第4回スポ禅サマーキャンプ

概要：

- ◆**スポ禅のテーマ**:スポーツと禅をとおして、青少年の心とからだの育成
- ◆**対象者**:U-13の親子(更にU-5,U-8にグループ分け)
- ◆**会場**:佛母寺・マザー牧場
- ◆**講師**:佛母寺住職&オツティ(清野乙彦)元Jリガー(グランパスエイト・FCバイエルンミュンヘン)
- ◆**持ち物**:スポーツ、サッカー用具一式。防寒具を備える(ウインドブレーカーなど)帰りの着替え、筆記用具
- ◆**食事**:お弁当持参、もしくはマザー牧場レストラン利用可能
- ◆**スケジュール**:季節により変更
- ◆**参加費**:「子ども1名3,000円」・「大人1名4,000円」・「親子2名5,000円」・「親子3名7,000円」・「親子4名8,000円」・「親子5名8,500円」

*スポーツ保険などの保険は一切含まれていません。

お申し込みは佛母寺ウェブサイトからどうぞ：www.butsumoji.com

お盆棚経（8月11日～14日）のお申し込み

「お盆」はご先祖様の精霊をお迎えして感謝を捧げる行事であり、元来、棚行はお盆の時期に菩提寺が檀家の家を一軒一軒訪ねて仏壇の前でお経を読むことをいいます。棚行の棚とは盆棚のことです。

お盆を迎えるに当たり、様々な問い合わせの電話がありますが、あまり形式にこだわらず、亡きご家族やご先祖様を丁重にお迎えし、感謝の念で真心をもっておもてなす。というスタンスさえ基本にあればよろしいかと思えます。

特に今年に初盆(新盆)を迎えられる檀信徒家には棚行の申し込みをしていただくようお願いしております。

お申し込みは電話やFAX・メールなどで、お申込み下さいますようお願い致します。なお、棚経の日時に関しては、各家のご希望通りにはならないことを、あらかじめご了承ください。

佛母寺ミニ法話(白隠:夜船閑話編)

長安の書肆(しよし)小川の何某(なにがし)とかや聞こえし

長安は、本来が中国の都です。大道、長安に通ずるという大都市です。前漢、随、唐などの都でした。現在の陝西省西安の西北に位置しています。が、ここに記されている長安は、日本の京の都です。昔の日本は、中国大陸の影響を強く受けていて、都市建設もまた例外ではありません。当時の京の都もお城を中心として左京を洛陽、右京を長安とよんでおりました。

なお、昔の中国の洛陽の様子を知ろうとするならば、「洛陽伽藍記」が参考になるでしょう。玄奘三蔵法師の「大唐大慈恩寺三蔵法師伝」には、東都(洛陽)と西都(長安)を皇帝に随って何度も行き来する描写が記されています。また、唐代の生き生きとした長安の姿は円仁著「入唐求法巡礼行記」に描写されています。

さて、書肆の肆はお店。ここでは京都の書店、小川源兵衛さんのことです。

遠く草書を裁して

京の都から静岡・原の松蔭寺の白隠禅師の手元に手紙が届けられたのですから、遠くと表現したわけです。遠いといえば、「長安日辺(ちょうあんにつぺん)」なる言葉があります。これは晋の元帝と明帝とが、さて、長安と太陽とどちらが遠いかを問答した語で、明帝記には「日近長安遠(ひちかくして、ちょうあんとおし)」と記されています。太陽は目に見えるけれど、長安ははるかかなたで見ることができず、そう落ち着いたのです。

「草書を裁して」とは、手紙、裁は文を書くことです。草書とは一般に楷書をくずした行書をさらにくずした書体で、急いで書いた手紙のことです。よって、急ぎの手紙の末尾には「草々」と書き添えます。裁は「仕立てる」の意と、取っておきましょう。転じて手紙をしたためたとなります。

吾が鵠林近侍の左右に寄せて

「吾」は白隠禅師ご自身のことです。鵠林は、松蔭寺の山号の鵠林山による白隠禅師の号です。ブツダがクシナガラ(沙羅双樹)の林の中で八十歳の生涯の涅槃に入ったとき、沙羅双樹がすべて白く変わり、その様子があたかも白い鶴(白鳥?)のようになったため鵠林と表現したといわれています。因みにインドの沙羅双樹は日本のそれよりも何倍かの大樹です。また、花は白色であることも付け加えておきましょう。

鵠林の鵠は、くぐい、白鳥、こうのとりのことです。白い、という意味もありますので、白いものが混じった老僧の思いもこめておられたのでありましょう。

手紙がご自身のそばつきの者(左右に侍する者たち)に寄せられたという意味です。書を直接本人に宛てるのではなく、侍者に宛てるのが礼。

云々く、伏して承る

うかがいますところではとか、聞きおよびますところでは、です。伏すという文字は会意文字で、人と犬との合字であることが判ります。意味は人のそばで犬がうかがいふしている、うかがうところでは、となります。

老師の古紙堆中、夜船閑話とかや云へる草稿あり

さて、白隠老大師には、古い原稿に(紙クズのなかに)、夜船閑話なる玉文がおりとか。

書中多く気を練り精を養ひ、人の営衛をして充たしめ、専ら長生久視(ちょうせいきゅうし)の秘訣を聚む、謂ゆる神仙鍊丹(しんせんれんたん)の至要なりと

その書物には、元気を練り精気を養い、血流を充満させ、世の行く末を見れるほどの長生きの秘訣をあつめた、いわゆる神仙たちが不老長寿の丹薬を練る極意だと聞いております。そのように、京都の書肆、小川源兵衛さんは急ぎの手紙を白隠の侍者に宛てたわけです。

気。元気。万物生成の根源力とか、身体の根源となる活動力とか、活気、気性、心気など、広い意味があります。気の本義は、お米をたくときにあがる湯気のこと。私たちも、それくらいの熱くやけどするほどの元気印でいたいのですが。

精は、生命の根源、生命を維持する根源の力のことです。精魂、精神をもさすでしょう。精の字には精白といって、お米をついて白くする、つまり、まじりけのない、純粹で精粹、精髓の意味もあります。二字を合わせて、精気。生氣あふれて生きるにはどうあるべきか、それが夜船閑話に述べられているわけです。

営衛は気血の作用のこと。営は血、衛は気。あるいは、一説には営は動脈、衛は静脈。また、一説には「営衛」とは兵衛の守りのこと兵舎と本営のこととも。おもしろいですね。兵舎は兵隊のいるところ、本営とは本陣。身体でいうところの人間の中心とそれをささえる各部分に転じています。血と気もこれに転じるところか。精気を全身に充満させるためにはどうすればよいか。

「長生久視」の語は「老子」五十九に出展があり、長生久視道と。不老長寿、長生不老をいう道家のことばです。長生久視なる語は、ていさい上は小川源兵衛さんが記したことになっていますが、実際は白隠自身の言でしょう。実に広範囲にわたって読破されていることがうかがえます。

「漢書」芸文志第十に神仙について記されています。「神仙(不老不死の神仙の術)とは、生命の真を内に確保するために、身を遊ばせてこれをその外に求めようとするものである。いささかをもって意を洗いすぎ心を平らかにし、胸中に心の動揺がないようにする。」神仙という不老不死の極意なるものは、生命の真、言いかえると、精と気といったものを自分の内に確保することで、そのためには、意(こころ)を洗いすぎ、心を平らかにし、一切の動揺をなくすことだと読めます。

さらに続けて、神仙の術がほかにあるように思っている人は、大言して人をあざむくために、あやしげでまちがったことばを用いたりします。が、これは聖王の示した道ではない、と。結論すれば、神仙の術は、心を静め、平らかにすること、それこそが不老長寿への道ということですね。鍊丹とは丹を練る丹田呼吸法。ここで坐禅の呼吸法、禅定が関係してくることが判りますね。

孔子も「中庸」で、奇怪で不可思議なことを行えば、後世の人たちはそれを真実とまごうて祖述するだろうが、私はそうしない、と。つまり、あり得ないことは起こり得ないのです。

是故に世の好事の君子是をおもふこと荒旱(こうかん)の雲霓(うんげい)の如し

(夜船閑話の内容に) その事に深い関心を寄せる人たちは、もしくは「夜船閑話を読んでみたいと考えていた世の中の物好きにとっては」、となりましようか。大ひでりに雨雲を待ち望むようなものです、と。夜船閑話はひでりに雨を欲するがごときの待望の書です、となります。

(つづく)

お知らせ

- ◎ 最近特に、業者と提携して寺院に住せず修行をしたかどうかよく分からないアルバイト僧侶なる者が横行しています。派遣僧侶です。佛母寺のお檀家さんまたは佛母寺墓地に埋葬されるお檀家さんには、佛母寺の住職が戒名を授け、佛母寺の住職がお通夜・お葬式・その他一切の法要を責任を持って執り行わなければなりません。もしも、お檀家さんでお葬式を出す場合、葬儀屋さんとは日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。出来るだけ調整をして、お通夜・お葬式を勤めさせていただきます。また、日程をすでに決めてしまった場合、できるだけ調整しますが、やむを得ない場合、有縁の臨済宗僧侶を紹介させていただきます。また、千葉県以外でお葬式を出す場合、臨済宗の僧籍をもつ僧侶を紹介させていただきます。葬儀の形態、場所にかかわらず、当寺のお檀家さん・当寺墓地に埋葬されるお檀家さんがお亡くなりになった場合、葬儀屋さんとは日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。東京でお通夜・お葬式を出す場合、葬儀屋さんを紹介することもできます。
- ◎ 佛母寺墓地について一言。個人墓地内の草取り等の清浄・清掃管理については、その墓地使用者の責任範囲です（宗教法人佛母寺所有墓地使用規定第8条明記）。ご自身で草取り等をしていただきますようお願い致します。なお、墓地使用規則の定めは、当寺責任役員会の決議を経て、より明確に明記する為に近い将来に改訂されることを検討しています。
- ◎ 佛母寺公式ウェブサイトはもうご覧になりましたか？仏事法要申込、ご祈願受付、水子供養、ペット供養、墓地、永代供養塔妙峰殿に関することなど、何でもお気軽にご質問・ご相談ください。 **website: www.butsumoji.com**
- ◎ お電話での寺務所受付は、9:00～16:30 までとさせていただきます。16:30 以降の電話はすべて龍源寺（03-3451-1853）へ転送されます。
- ◎ 今年、年回が当たっておられます方は、ご法事希望の日時が決まりましたら、お電話・ファックス、またはウェブサイトの「お問い合わせ」からメールにてお問い合わせ下さい。

おもな行事	
春彼岸会	3月18日(日)
妙峰殿施餓鬼会	7月第2日曜日
施餓鬼会	8月4日(土)
秋彼岸会	9月23日(日)
除夜鐘	大晦日

平成24年 正当年回表	
1 周忌	平成23年
3 回忌	平成22年
7 回忌	平成18年
13 回忌	平成12年
17 回忌	平成8年
23 回忌	平成2年
27 回忌	昭和61年
33 回忌	昭和55年
37 回忌	昭和51年
50 遠年忌	昭和38年